

「受講者の声」 ミュンヘン・ドイツ語夏期集中講座 2024年8月開催

ミュンヘン大学附属語学学校 (Deutschkurse bei der Universität München) で開催された1か月の夏期集中講座を受講した商学部生の報告からその一部をご紹介します。次年度の受講を検討する際に、ぜひ参考にしてください。この夏期講習の特徴は、自分のドイツ語レベルにあったクラスに配属され、そこで同レベルの世界の学生と一緒に学ぶことです。※授業の各レベルについては、最後のページをご覧ください。

商学部生のみなさんのご参加をお待ちしています。

(担当教員)

授業は難しいが最高のプログラム

今回のプログラムの感想について授業、生活の観点から論じる。

まず、授業に関して私はA2のクラスを受講したが、思っている以上に難しく想像をはるかに超えるという印象だった。授業は全部ドイツ語、宿題も多めだった。ドイツ語の勉強は大学一年の頃から学習している事、出国直前も学期末試験、独検対策の学習をしていた事などから、ドイツ語に関しては割と時間をかけて学習していたと思っていた為、分からないとなったときにとっても衝撃を受けた。そして何より、日本でドイツ語を学習するのとはまったく環境の異なる場所だったことで精神的な部分でもそのように感じていたのかもしれないが、滞在を終えてとても難しかったなと感じた。やっていることはある程度日本で学習している範囲ではあるが、すべてドイツ語で聞かなければいけないという点で非常に難しいと思う。

生活に関しては非常に充実しており行ってよかったなと心底感じた。私はこの滞在中を通して4カ国(ドイツ、オーストリア、スイス、イタリア)に行き様々な景色と文

化をこの目で見ることができた。自分がいかに狭い世界にとらわれていたかということを実感するとともに、この滞在以降様々な国に足を運びたいと思うようになった。このプログラムを通して最後に言えることは「授業は難しいが最高である」ということである。

(商学部2年・男性 A2クラスに参加)

世界の人たちと学ぶ楽しさ

ミュンヘン短期留学に行って本当に良かったと思います。授業は午前中の3時間だけなので集中して受けることができました。午前は勉強して、午後は自由に過ごすのでメリハリある充実した生活を送ることができました。内容はすべてドイツ語ですが楽しく受けることができました。クラスメイトもみんなフレンドリーなので国際交流ができます！これが私にとって一番大きい成果だと思います。

一方で、ドイツ語を上達したいと考えるならば日々の授業の中でより能動的に受講し、授業外での積極的な活動が必要であるように感じました。留学といえども、語学学校にいるのはネイティブの先生他には

同じ外国人です。そのため基本的には英語がコミュニケーションツールになると考えてよいと思います。つまりドイツ語漬けの生活は難しいです。ドイツ語で話しかければ、それで応じてくれると思うので可能ではあるかもしれませんが、ドイツ語だけの生活を想像すると、少し違うかもしれません。

もし行くのを迷っているくらいなら、行った方がよいと思います。まだ留学や、海外旅行経験のない人でも、1か月という期間は適性をはかるにはちょうどいいです。私はもともとこのプログラムに参加する意思はなく、直前のリマインドメールで何となく応募しました。その結果、世界の人たちの学ぶ姿勢や好奇心に心を打たれ、自分も頑張ろうと思うことができました。留学はキャンセルを軽々しくできないので、計画をしっかり立てた方がいいというのはあると思いますが、勢いに任せ一度行ってみると分かることはあるかもしれません。よくも悪くもたかが一か月です。重くとらえ過ぎず、まずは経験をしてみてるのもおすすめです。ぜひ頑張ってください！

また違う話ですが、午後の時間と土曜日日曜日は自由に行動できます。みんないろいろなところに行っていたので、結構行こうと思えばいくらでも行けそうです。学校でできた友達とランチに行ったり、遊びに行ったりもするので平日は予定を開けておくといいと思います！とても楽しかったです。

(商学部2年・女性 A2クラスに参加)

忘れられない財産

あつという間にすぎてしまった一か月でしたが、ミュンヘンで出会った人たちや過ごした時間は決して忘れられない財産になってくれると自負しています。私にとって刺激となったことを三つの観点に分けて報告させていただきます。

一つ目は夏期講習を中心とした語学学習の観点からです。毎週平日の朝9時から始まる私の授業では、レベルがB1だったからか、普段明治大学で扱うよりも遥かに高い難易度の内容を高水準で進めているという印象でした。教授が語彙の難しいドイツ語の長文を用意し、単語の意味から話の内容まですべてドイツ語で説明していました。授業中に生徒が質問をしたりペアワークを行ったりするわけですが、ほとんどの学生が自分の意見や推測をドイツ語で説明することができたので、これが高水準で進んでいるという私の所感の根拠になっています。

初日の段階で日本人のクラスメイトが一人もいなかったのも、私は英語とドイツ語を両方精一杯駆使して状況を整理していました。午後は時間が十分にあったのでミュンヘンの各地を散策出来ましたが、授業になんとか追いつくために宿題に加えて長文の意味を調べ、音読をして毎日次の日に備えていました。電車やレジなど至る所でドイツ語に触れることができるのは有意義でしたが、最後の週あたりまでは耳が慣れず苦しい時間でした。地道にリスニングや **Verben mit Präpositionen** (前置詞と用いる動詞) と授業で取り組んだおかげで、言葉が肉体に浸透する大切さを教授から学ぶことができました。

二つ目に日常生活の側面についてです。明治の学生は全員 **Centerroom** という三人部屋の学生寮と決められていました。私の部屋は明治でもクラスメイトの日本人と二人だったので、食費や化粧品を二人で共有して生活していました。寮から食事が支給されることはないので、予定がなければ常に自炊をしていました。**Centerroom** での一番の困難は貸し出しで手に入る家電や家具の充実度合いが部屋によって異なるということです。私の部屋は初め、電子レンジ、まな板、お椀、箸、ドライヤーなどがなかったのが後から調達することになりました。友人は国籍の異なる方が同部屋となっていて、英語が苦手だと毎日神経を使ってしまうものだと思いました。金銭のことに関しては、なるべく高額なものを買わないつもりでも結局 20 万円ほど使っていました。私の部屋は大人数でパーティーを行うことが幾度もあったので食費の算出が難しいですが、スーパーの食材はそれほど高価ではなかったと思いました。合計1日15ユーロ程度という計算で行動しました。現地で仲良くなった友人と食事に行く際は現金で割り勘することが多かったのもう少し現金を持っていればよかったと思いました。

三つ目にドイツという国の観点に注目したいと思います。15分おきに鳴り響く教会や8月でも長袖で生活するほどの涼しい気候など、ドイツという国は日本人の私の常識を何度も覆してきました。何よりドイツから学んだことは人の温かさです。レジに行けば笑顔で挨拶する人がいて、道に迷ったら親身に教えてくれる人がいて、人に対して真っすぐ笑顔を向けてくれる人がたくさ

んいました。今回のプログラムに参加していた学生にも同様のことは言えます。拙い言語能力でも真剣に話を聞いてくれる人や、日本の文化に興味を持ってくれる方にたくさん出会え、感無量でした。私はドイツ語を学ぶためにミュンヘンに行きましたが、そこで学んだことは言葉を超える人間の優しさでした。これから先、英語やドイツ語の学習に取り組んだり、就職活動をしたりと先々のことに悩むことは多くあります。しかし慌てず一つ一つ丁寧に、目の前に広がる日常や自然を楽しんで、ゆったりとした、**gemütlich** な生き方をしていきたいと思えるようになりました。

(商学部2年・男性 B1クラスに参加)



■クラスレベルの目安は、A1 が初歩、A1.2～A2 が初級、B1/B2 が中級、C1/C2 が上級です。授業はドイツ語のみで実施されます。

(以上)